

平成 30 年度第 1 回 駒ヶ根市地域公共交通協議会 次第

平成 30 年 6 月 21 日 午後 1 時 30 分～

駒ヶ根市役所 本庁舎 2 階 大会議室

1 開会

2 委嘱状交付

3 会長あいさつ

4 協議事項

- | | | |
|--|------|--------|
| (1) 平成 29 年度事業報告及び決算報告 | 資料 1 | P1～3 |
| (2) 駒ヶ根市地域公共交通網形成計画の設定目標に対する評価 | 資料 2 | P4～5 |
| (3) 駒ヶ根市地域公共交通網形成計画に基づく事業支援業務の
委託契約 (案) | 資料 3 | P6～7 |
| (4) 生活交通確保維持改善計画 (案) | 資料 4 | P8～12 |
| (5) 公共交通に関する市民意向調査の実施について | 資料 5 | P13～14 |
| (6) いいちゃんバスに関する今後の取り組みについて | 資料 6 | P15 |

5 報告事項

- | | | |
|----------------------------|------|--------|
| (1) こまタク利用実績及び割引タクシー券の利用実績 | 資料 7 | P16～19 |
| (2) 運転免許証自主返納支援事業の状況報告 | 資料 8 | P20 |

6 その他

7 閉会

駒ヶ根市地域公共交通協議会 委員名簿

平成30年6月21日現在

協議会役職	委 員	氏名	役職	備考
会長	駒ヶ根市	杉本 幸治	市長	計画作成市 主宰市の長
副会長	駒ヶ根商工会議所	春日 俊也	副会頭	商工
	伊那バス株式会社	藤澤 洋二	代表取締役社長	バス事業者
	中央アルプス観光株式会社	田村 芳成	代表取締役常務	バス事業者
	伊南乗用自動車有限会社	久保田 武彦	代表取締役	バス事業者 県タクシー協会
	赤穂タクシー有限会社	坂元 洋	代表取締役	県タクシー協会
	長野県伊那建設事務所	大瀬木 弘	維持管理課長	道路管理者
	駒ヶ根警察署	丸山 正彦	署長	公安・警察
	駒ヶ根市区長会	竹内 鉄夫	北割1区区長	地域代表
	駒ヶ根市区長会	倉田 文和	町2区区長	地域代表
監事	駒ヶ根市区長会	宮脇 金朗	中沢区区長	地域代表
	駒ヶ根市高齢者クラブ連合会	清水 春雄	交通安全防犯対策部長	利用者
	特定非営利活動法人 駒ヶ根市身体障害者福祉協会	北原 和雄	会長	利用者
	市民	古谷 葉子		利用者
	市民	北澤 里子		利用者
	伊那バス労働組合	鈴木 明	自動車対策部長	労働団体
監事	一般社団法人駒ヶ根観光協会	岩崎 康男	事務局長	観光
	社会福祉法人 駒ヶ根市社会福祉協議会	宮崎 洋一郎	地域福祉振興係長	福祉
	国土交通省 北陸信越運輸局長野運輸支局	宮本 卓	首席運輸企画専門官	地方運輸局
	長野県企画振興部	宮島 克夫	交通政策課長	長野県
	長野県上伊那地域振興局	山邊 英夫	企画振興課長	長野県

(21名)

関係職員	駒ヶ根市総務部	小平 操	総務部長	所管部
関係職員	駒ヶ根市建設部	杉山 哲也	建設課長	道路管理者
関係職員	駒ヶ根市民生部	田村 巴	福祉課長	福祉所管
関係職員	駒ヶ根市教育委員会	北原 純	子ども課長	小中学校所管

事務局長	駒ヶ根市総務部企画振興課	小澤 一芳	企画振興課長	所管課
事務局員	駒ヶ根市総務部企画振興課	北沢 稔	少子化対策 ・交通政策係長	所管課
事務局員	駒ヶ根市総務部企画振興課	氣賀澤 博徳	地域振興係	所管課
事務局員	駒ヶ根市総務部企画振興課	榮 千夏	少子化対策 ・交通政策係	所管課

駒ヶ根市地域公共交通協議会 平成 29 年度事業報告

年月日	内容
29. 6. 19	第 1 回協議会（会場：駒ヶ根市役所 大会議室） ・平成 28 年度事業報告及び決算報告 ・こまタク・割引タクシー券の利用実績等の報告 ・国調査事業、県補助金事業詳細について ・運転免許証自主返納支援事業開始 ・駒ヶ根市生活交通確保維持改善計画（案）
29. 9	書面決議 ・平成 29 年度下半期 こまタクの運行業務委託業者
29. 11	調査業務（県地域交通ベストミックス構築事業を活用） ・「いいちゃんバス（病院線）」沿線住民へのアンケート調査 実施（対象 沿線左右の幅 500m の範囲の 505 名中 260 名回答） 駒ヶ根市公共交通ガイドブック作成 ・市報折り込み全戸配布（約 12,000 戸）
29. 12. 8	第 2 回協議会（会場：駒ヶ根市役所 大会議室） ・平日毎日運行後 1 年のこまタク運行実績 ・「いいちゃんバス」沿線ニーズ調査に向けて ・「こまタク」利用登録者アンケート調査に向けて
30. 1. 19	高齢者の運転と公共交通のあり方を考えるフォーラム 開催
30. 2	調査業務 ・「こまタク利用に関する」アンケート調査（対象 利用者 246 名中 163 名回答、非利用者 1,106 名中 375 名回答）
30. 3. 7	推進事業（県地域交通ベストミックス構築事業を活用） ・こまタク専用車両導入と運行事業者への引き渡し式
30. 3. 20	第 3 回協議会（会場：駒ヶ根市役所 大会議室） ・こまタクの運行実績、タクシー券の利用状況 ・こまタク利用登録者アンケート調査結果報告 ・運転免許証自主返納支援事業の状況 ・いいちゃんバスアンケート調査結果 ・平成 30 年度事業計画及び予算（案） ・平成 30 年度上半期 こまタクの運行業務委託業者（案）

平成29年度 駒ヶ根市地域公共交通協議会 決算書

1 歳入

(単位 円)

項目	当初予算額	補正予算額	計 (A)	決算額 (B)	比較 (B-A)	内容
1 負担金	35,000,000	0	35,000,000	29,538,867	△ 5,461,133	
1 市負担金	35,000,000	0	35,000,000	29,538,867	△ 5,461,133	・駒ヶ根市負担金 29,538,867
2 繰越金	0		0	0	0	
1 繰越金	0		0	0	0	
3 預金利子	0		0	23	23	
1 預金利子	0		0	23	23	・預金利子 23
4 雑入	6,500,000		6,500,000	5,672,000	△ 828,000	
1 雑入	6,500,000		6,500,000	5,672,000	△ 828,000	・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 4,947,000 ・地域公共交通計画策定事業費国庫補助金 725,000
歳入合計	41,500,000	0	41,500,000	35,210,890	△ 6,289,110	

2 歳出

(単位 円)

項目	当初予算額	補正予算額	計 (A)	決算額 (B)	比較 (B-A)	内容
1 総務費	6,770,000	0	6,770,000	5,870,858	△ 899,142	
1 会議費	250,000	0	250,000	181,600	△ 68,400	・協議会委員報酬 181,600
2 事務費	6,520,000	0	6,520,000	5,689,258	△ 830,742	・国庫補助金相当額の市への支払金 5,672,000 ・口座振込手数料等 17,258
2 事業費	34,730,000	0	34,730,000	29,340,032	△ 5,389,968	
1 事業推進費	33,630,000	0	33,630,000	29,278,796	△ 4,351,204	・デマンド交通運行費用※ 22,048,000 ・デマンド受付業務 3,971,736 ・(国)事業推進に係る調査業務 2,408,400 ・(国)アンケート発送、返信 172,204 ・(国)アンケート調査用紙 2,376 ・(国)こまタク利用者カード 49,680 ・(県)いいちゃんバスニーズ調査 626,400
2 広報費	1,100,000	0	1,100,000	61,236	△ 1,038,764	・(国)公共交通ガイドブック折込料 61,236
3 予備費	0	0	0	0	0	
1 予備費	0	0	0	0	0	
歳出合計	41,500,000	0	41,500,000	35,210,890	△ 6,289,110	

※運行費用＝運行経費－運賃収入

3 収支

(単位 円)

区分	決算額	備考
歳入総額	35,210,890	
歳出総額	35,210,890	
歳入歳出差引額	0	

会 計 監 査 報 告 書

平成 29 年度駒ヶ根市地域公共交通協議会歳入歳出決算について、監査を実施し、関係書類を精査した結果、適正かつ正確に処理されていたことを報告します。

平成 30 年 5 月 16 日

駒ヶ根市地域公共交通協議会

監 事 宮脇 金朗 印

監 事 岩崎 康男 印

※両監査員には、報告書に押印・自署いただいておりますが、個人情報保護（印影）のため、原本の添付は差し控えております。

(1) 地域公共交通網の整備に関する目標

目標 1-1 こまタク運行エリアによる人口カバー率

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
施策対象人口／全人口	100%	100%	◎
コメント こまタク運行範囲は全市域を網羅しており目標を達成しているため「◎評価」とする。			

目標 1-2 通学困難世帯の補助対象区域にある高校生世帯への支援実施率

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
支援実施世帯数／対象地区世帯数	80%以上	未実施	×
コメント 制度設計の検討に向けた現状把握やニーズ調査に取り組んでおり、事業は未実施のため「×評価」とする。			

(2) 地域公共交通の利用実績に関する目標

目標 2-1 こまタクの登録者数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
登録者数データ	前年比3%増	1,348人 前年比73人増(+5.7%)	◎
コメント 毎日運行化による利便性の向上ならびに運転免許証自主返納支援事業の効果もあり、登録者は5.7%増えた。目標をクリアしたため「◎評価」とする。※死亡者・転出者等は登録名簿から削除			

目標 2-2 こまタクの利用者数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間利用者数データ	前年比3%増	6,464人 前年比764人増(+13.4%)	◎
コメント 毎日運行化による乗車可能日が増えたことで利用者数は増加傾向にある。目標をクリアしたため「◎評価」とする。			

目標 2-3 こまタクの運行率

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間運行実績データ	80%[中間時H30] 85%[計画期間終了時]	89.0% 前年比+9.5%	◎
コメント 毎日運行化による利用者数の増加ならびに運行エリアが5⇒2エリアとなり89%の運行率となった。年間運行率も前年比9.5%の増加となり、目標をクリアしたため「◎評価」とする。			

目標 2-4 割引タクシー券の利用枚数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間利用者数データ	前年比3%増	29,545枚 前年比1,058枚増(+3.7%)	○
コメント 割引タクシー券の利用枚数は、竜西地区は前年比12.1%の増、竜東地区は9.8%の減となった。利用者数は市全体では前年比2.8%の増であった。「○評価」とする。			

目標 2-5 駒ヶ岳ロープウェイ線の利用者数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間利用者数データ	5%増	前年比+3.2%	△
コメント 中央アルプス観光より数値提供。利用者数：H28 210,845人 ⇒ H29 217,529人			

目標 2-6 市民全体でのJR飯田線の利用頻度「月1回以上利用」

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
市民意向調査(H30実施)	9%	—	—
コメント ※市民意向調査は、計画の中間期となるH30に実施する。			

目標 2-7 市民全体での高速バスの利用頻度「月1回以上利用」

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
市民意向調査(H30実施)	8%	—	—
コメント ※市民意向調査は、計画の中間期となるH30に実施する。			

(3) 観光振興に対する目標

目標 3-1 往復乗車券・セット乗車券の販売実績

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
販売実績データ	年間3,000枚	未実施	×
コメント バスと温泉のセット乗車券の仕組みづくりに向けた検討を行うが、具体化まで至っていない。			

目標 3-2 観光タクシーの利用者数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間利用者数データ	初年度100組 以降前年比5%増	0組	×
コメント 観光協会とタクシー事業者による現制度を検証し、利用促進の仕組みづくりを検討している。事業等に着手できていないため「×評価」とする。			

(4) 地域公共交通の利用促進・意識醸成に関する目標

目標 4-1 公共交通フォーラム(ワークショップ)の開催回数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間開催回数	毎年1回以上	2回	◎
コメント 公共交通に対する意識を高めるため、高齢者の運転について考えるフォーラムを開催した。			

目標 4-2 住民意見交換会開催回数

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
年間開催回数	毎年5回以上	1回	△
コメント 高齢者を対象に市の公共交通全体について周知するとともに、利用促進を図った。			

目標 4-3 公共交通に対する住民の満足度

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
市民満足度調査(H29実施)	評点3.2[中間時H30] 評点3.5[計画期間終了時]	2.7pt	△
コメント H29年度実施の市民満足度調査で、調査項目「交通の便がよく移動しやすい」の満足度は2.7ポイントとなった。数値目標を達成できないため「△評価」とする。			

目標 4-4 公共交通を住民が支えていく意識

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
市民意向調査(H30実施)	「地域住民で負担してサービス保持」という回答30%以上	—	—
コメント ※市民意向調査は、計画の中間期となるH30に実施する。			

(5) 地域公共交通の維持・持続性担保に関する目標

目標 5-1 公共交通関連の行政負担額

使用するデータ	数値目標	達成状況	評価
各年度普通会計決算	3,800万円以内	総額 37,758,007円 ・こまタク … 29,538,867円 ・割引タクシー … 5,210,800円 ・スクールタクシー … 3,008,340円	○
コメント こまタク毎日運行化による運行費の増額ならびにスクールタクシーの単価上昇により増額となった。1台当たりの平均乗車人数は、前年度に比べ0.1ポイント減少しており一人当たりのコストは高くなっているため、「○評価」とする。			

評価の考え方

◎	数値目標を達成し効果があった
○	数値目標は達成したが改善が求められる
△	数値目標が達成できなかった
×	事業等ができなかった

駒ヶ根市地域公共交通網形成計画に基づく事業支援業務の委託契約(案)

1. 委託業務の名称

平成 30 年度 駒ヶ根市地域公共交通網形成計画に基づく事業支援委託業務

2. 委託業務の目的

本業務は、平成 28 年度に策定した駒ヶ根市地域公共交通網形成計画に基づき、計画に位置づけられた各種事業の推進及び評価検証を行い、市公共交通の継続的な運行の維持と管理、今後の運行内容の改善につなげる目的で実施する。

3. 委託業務の内容

(1) 市民意向調査の実施

今年度は 5ヶ年計画として策定した地域公共交通網形成計画の中間年にあたるため、地域公共交通施策の運用に関する利用実態や市民意識、ニーズなどを把握し、計画の中間評価や施策の具体的方向付けを行うための市民アンケート調査を実施する。

調査は 15 歳以上の駒ヶ根市民 1000 名を無作為抽出により、サンプリングし、郵送配布、郵送回収にて実施する。回収率 50%を見込む。

(2) 公共交通利用促進啓発事業の企画と実施

高齢者層の免許返納を含めた公共交通の利用促進と意識啓発のためのワークショップや、通学困難者対策を検討するための中高生との意見交換会を企画・実施する。対象は駒ヶ根市高齢者クラブ連合会の役員や、市内中高生とする。今後の公共交通のあり方と利用促進のために具体的事業案などを検討する。

(3) 中間評価の実施

(1) の調査結果のほか、各施策の利用実績データや関連調査結果データなどを収集・分析し、網形成計画に位置づけた評価方法に則って、中間年次の評価を実施する。評価に加えて、計画期間後半における具体的な事業展開や施策の改善・調整案などを提案する。

4. 見積依頼先とする指名業者の選定

(1) 下記理由により、特定非営利活動法人 S C O P と随意契約することとしたい。

理由：当業務の実施にあたり、「駒ヶ根市地域公共交通網形成計画」の策定に係る調査業務を受託しており、当市の公共交通に精通し、また、市民アンケートやヒアリング調査など蓄積されたデータについても熟知しており、効率的かつ効果的な業務遂行が期待できる。

(2) 指名業者概要

業者 特定非営利活動法人 S C O P 理事 鷲見真一
松本中央 2 丁目 3 番 17 号 知新堂ビル 3 階 A

実績 平成 27 年度駒ヶ根市地域公共交通網形成計画の策定に係る調査業務(プロポーザルによる)
平成 28 年度駒ヶ根市地域公共交通の事業推進に係る支援業務(随意契約)
平成 29 年度駒ヶ根市地域公共交通網形成計画推進事業委託業務(随意契約)

参考 駒ヶ根市物品購入等競争入札参加有資格

営業種目「調査・分析・診断業務」「広告・宣伝」「企画・立案・製作」の登録有

(3) 契約先の決定方法

- ① 指名業者に業務仕様書を提示し、見積書を徴収する。
 - ② 事務局により別途設定する予定価格と見積を比較の上、予定価格の範囲内であれば、当該業者との間で、業務委託を締結する。
- ※ 県補助金の交付決定後速やかに手続きを行う。

5. 契約締結後について

速やかに当該業務に着手することとし、協議会へ事業実施状況等を報告する。

契約期間は、契約締結日から平成 30 年 3 月 20 日までとする。

駒ヶ根市生活交通確保維持改善計画（案）

（地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係）

（策定年月日）平成 30 年 6 月 21 日

（協議会名称）駒ヶ根市地域公共交通協議会

0. 生活交通確保維持改善計画の名称

駒ヶ根市地域内フィーダー系統確保維持計画（平成 31 年度～平成 33 年度）

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

（1）事業の背景

【人口、地理】

- ① 人口 32,321 人、高齢化率 30.7%（平成 30 年 4 月 1 日現在）
- ② 西に中央アルプス、東に南アルプスに囲まれた高低差のある地域で、西部地域（市中央部を縦断する天竜川よりも西側の地域）は天竜川沿岸の複雑な河岸段丘、東部地域（天竜川よりも東側の地域）は山あいの急峻な中山間集落となっている。

【都市構造、移動手段】

- ① 自家用車交通を中心に考えられた都市計画。結果、都市の郊外化が進行（商業施設、医療機関、新興住宅などは郊外化かつ散在）。これにより、移動ニーズが多様化（目的地が JR 駒ヶ根駅を中心とした市街地から分散）し、自家用車に頼らざるを得ない都市形態となっている。
- ② 自家用車を持たない交通弱者にとっては、通院や買い物といった生活に必要な移動のために、地域公共交通といった移動手段が必須。
- ③ 少子超高齢化の加速により、将来、車を運転できなくなる人、送迎してくれる家族を持たない人の増加が懸念されることから、社会構造の変化に応じた都市計画の見直しに合わせて、現実的な都市形態や市民ニーズに合った地域公共交通の確保が必要。

【既存の地域公共交通の課題】

- ① 当市の公共交通網は、隣接する伊那市（伊那中央病院へ通院する市民も多い）や飯田市等へ通じる唯一の幹線交通である JR 飯田線や、中央自動車道を利用した高速バスを軸に、幹線交通に通じる支線の役割を果たしている「こまちゃんバス」（定時定路線。運行母体：駒ヶ根市地域公共交通協議会。平成 25 年 5 月末日までの運行）、JR 駒ヶ根駅と駒ヶ岳ロープウェーとの間を往復する民営路線バスからなっている。
- ② 「こまちゃんバス」は、都市の郊外化の進展に伴い、幅広い出発地と目的地に対応しきれず次のような課題を抱えていた。
 - ・利用者数の減少（近年は毎年 10% ずつ減少）
 - ・交通空白/不便地域の存在
 - ・利用者要望を充足するための路線/ダイヤ拡大や運賃収入の減少による財政負担の増

- ③ また、平成 21 年に実施した住民意向調査では、市民の 74.5%が「こまちゃんバス」に対して改善を求めており、特に交通弱者の中心である高齢者は「自宅近くの運行」「増便」「デマンド方式の導入」を求めており、「こまちゃんバス」が市内移動の足としての役割を十分果たしていない状況であった。

(2) 事業の目的、必要性

- ① そこで、既存の地域公共交通の課題を解決し、次のような地域公共交通を実現するための計画を「駒ヶ根市地域公共交通総合連携計画」として平成 24 年度にまとめた。
- ・交通空白/不便地域を解消する交通
 - ・都市形態や高齢者を中心とした交通弱者のニーズに即した有効的な交通
 - ・無駄がなく効率的な交通
 - ・市民と行政との応分の負担による持続可能な交通
- ② この計画に基づき、「こまちゃんバス」の代替となる「こまちゃんデマンド型乗合タクシー」（通称「こまタク」）の本格運行を平成 25 年 10 月 1 日から開始させた。
- ③ 高齢者を中心とした交通弱者の通院や買い物といった生活を支える交通（「こまタク」）の確保・維持していくため、地域公共交通確保維持改善事業に取り組むことが必要。
- ④ 28 年度にはまちづくりの視点を踏まえた公共交通ネットワークの再構築を図るための計画として「駒ヶ根市地域公共交通網形成計画」を策定し、「こまタク」においてもアンケート調査等で届いた意見を反映した、利便性の高い制度に拡充を図っていく。
- ⑤ 29 年度に実施した「こまタク」利用に関するアンケート調査を実施し、利用登録者中、実利用者と非利用者それぞれから利用実態や各種意見を取りまとめた。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

「こまタク」運行に係る目標値

	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
利用登録者数	1,340 人以上	1,380 人以上	1,420 人以上
一便当たり平均乗車人数	3.2 人以上	3.3 人以上	3.4 人以上
運行率	80.0%以上	82.5%以上	85.0%以上
登録者数に占める実利用者数の割合	26%以上	29%以上	32%以上
交通空白/不便地域	ゼロ	ゼロ	ゼロ

(2) 事業の効果

- ① 「こまタク」を維持することにより、高齢者を中心とした交通弱者の日常生活（特に、通院や買い物）に必要な移動手段が、有効的^{※1}かつ効率的^{※2}に確保される。

※1 要望が一番多い「自宅近くの運行」が完全に実現される（交通空白/不便地域の完全解消）

市内のどこに住んでいても、主要な医療機関、公共施設、商業施設にアクセスできる

※2 予約制により「予約がない場合は運行しない」、「予約に応じた経済路線の設定」により無駄がない

- ② 自宅まで送迎する「こまタク」の運行により、高齢者を中心とした交通弱者の外出を促進し、地域活性にもつながる。

3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

※別添 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表1」

「デマンド交通運行業務仕様書」参照

※「こまタク」の概要

- ① 運行範囲 市内全域（停留所名付きエリア図は別紙 a 参照）
- ② 運行期間 本格運行…平成 25 年 10 月 1 日 運行の改正…平成 28 年 10 月 1 日
- ③ 運行日 年間 241 日/エリア（平成 30 年度） 平日毎日運行
（土日祝日・年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日・お盆 8 月 13 日～15 日は運休）
- ④ 時刻表 ◇行き（自宅→停留所） 午前 8 時、午前 10 時
◇帰り（停留所→自宅） 正午、午後 2 時
- ⑤ 停留所 ◇全ての地区の人が利用できる停留所
昭和伊南総合病院、前澤病院、山村眼科整形外科、
つちかね整形外科クリニック、JR 駒ヶ根駅、駒ヶ根郵便局、
駒ヶ根市役所、駒ヶ根総合文化センター、ふれあいセンター
ベルシャイン駒ヶ根店、JA 上伊那駒ヶ根支所
◇お住まいの地区の人だけが利用できる停留所
木下医院、下平けやき診療所、JA 駒ヶ根東、中沢支所、
すこやかクリニック、JA 東伊那、東伊那支所、
秋城医院、花の道クリニック、かしの実クリニック、
高山内科クリニック、座光寺内科医院、須田医院
- ⑥ 運賃 片道 400 円
- ⑦ 運送事業者の決定方法 平成 29 年度第 3 回駒ヶ根市地域公共交通協議会で決定
（運送事業者を選定経緯資料は別紙 b 参照）
- ⑧ 運行事業者 伊南乗用自動車有限会社、赤穂タクシー有限会社

4. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

※別添 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表2」参照

5. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

伊南乗用自動車有限会社 赤穂タクシー有限会社

6. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要【地域内フィーダー系統のみ】

※別添 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表5」

7. 協議会の開催状況と主な議論

- ・平成 24 年 8 月 23 日 こまちゃんバス見直し案
- ・平成 24 年 11 月 20 日 こまちゃんバス見直し案の修正、地域公共交通総合連携計画案
- ・平成 25 年 1 月 16 日 こまちゃんバス見直し案及び地域公共交通総合連携計画の承認
- ・平成 25 年 3 月 22 日 「こまタク」について
- ・平成 25 年 6 月 18 日 地域内フィーダー計画の承認
- ・平成 25 年 8 月 27 日 「こまタク」の本格運行に向けた見直し案
- ・平成 26 年 3 月 24 日 「こまタク」の運行実績、アンケート調査結果
- ・平成 26 年 6 月 19 日 地域内フィーダー計画の承認
- ・平成 27 年 3 月 19 日 運行実績、アンケート調査結果、運行に係る一部改正
- ・平成 27 年 6 月 17 日 地域内フィーダー計画の承認
- ・平成 27 年 9 月 11 日 地域公共交通網形成計画策定調査業務について
- ・平成 27 年 11 月 6 日 公共交通体系の再検討にあたっての論点整理
- ・平成 28 年 3 月 16 日 公共交通網形成計画（素々案）について
- ・平成 28 年 5 月 17 日 公共交通網形成計画（素案）の承認について
- ・平成 28 年 6 月 27 日 地域内フィーダー計画の承認
- ・平成 28 年 9 月 12 日 「こまタク」平日毎日運行について
- ・平成 28 年 10 月 3 日 「こまタク」平日毎日運行に移行
- ・平成 29 年 2 月 20 日 「こまタク」利用者へのアンケート調査
- ・平成 29 年 3 月 23 日 運行実績、アンケート調査結果、運転免許証返納者支援事業
- ・平成 29 年 6 月 19 日 地域内フィーダー計画の承認
- ・平成 29 年 11 月 20 日 公共交通ガイドブック製作、市内全戸配布
- ・平成 30 年 2 月 2 日 「こまタク」利用登録者（実利用者・非利用者）へのアンケート調査

8. 利用者等の意見の反映

- ・アンケート調査を実施（26 年度中に 4 回、対象者 541 人中 349 人回答）
- ・アンケート調査を実施（平成 26 年 12 月 3 日～12 月 22 日、対象者 222 人中 138 人回答）
- ・駒ヶ根市民 2,500 世帯を対象としたアンケート調査を実施
（平成 27 年 9 月 7 日～9 月 24 日 1,082 世帯回答）
- ・駒ヶ根市地域公共交通網形成計画（案）についてパブリックコメント及び説明会を実施
（パブコメ：平成 28 年 5 月 26 日～6 月 17 日、説明会：5 月 30 日出席者 2 名、31 日出席者 3 名）
- ・アンケート調査を実施（平成 29 年 2 月 20 日～3 月 10 日 対象 249 世帯中 175 世帯回答）
- ・アンケート調査を実施（平成 30 年 2 月 2 日～2 月 16 日 利用者 246 名中 163 名回答、
非利用者 1,106 名中 375 名回答）

9. 協議会メンバーの構成員	
駒ヶ根市地域公共交通協議会 会議メンバーは次のとおり	
関係都道府県	長野県企画振興部交通政策課 長野県上伊那地方振興局
関係市区町村	駒ヶ根市総務部企画振興課 駒ヶ根市建設部 駒ヶ根市民生部 駒ヶ根市教育委員会
交通事業者 ・交通施設管理者等	伊那バス(株) 中央アルプス観光(株) 伊南乗用自動車(有) 赤穂タクシー(有) 長野県伊那建設事務所 駒ヶ根警察署
地方運輸局	北陸信越運輸局長野運輸支局
その他協議会が必要と認める者	駒ヶ根市区長会 駒ヶ根市商工会議所 駒ヶ根市社会福祉協議会 駒ヶ根市高齢者クラブ連合会 駒ヶ根市身体障害者福祉協会 市民 駒ヶ根市観光協会 伊那バス労働組合

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県駒ヶ根市赤須町 20 番 1 号

(所 属) 総務部 企画振興課 少子化対策・交通政策係

(氏 名) 北沢 稔

(電 話) 0265-83-2111【内線 244】

(e-mail) kizai@city.komagane.lg.jp

公共交通に関する市民意向調査（アンケート）の実施について

(1) 調査の目的・ねらい

平成 28 年 7 月に策定した「駒ヶ根市地域公共交通網形成計画」は、2016～2020 年度の 5 ケ年計画としており、本年平成 30 年度(2018 年)は、その中間年度にあたる。同計画においては、目標値を定めて計画の運用状況や進捗状況などを評価検証するものとしており、5 ケ年としての目標値のほか、中間指標についても定めている。目標値はこまタクの利用実績などのほかに、市民の行動実態や意識に関するものも掲げており、それらについては、市民アンケート調査によって把握するものとしている。これを受けて、本年度、アンケート調査を実施するものである。

(2) 調査の概要

本アンケート調査は、以下の概要で実施することを見込んでいる。

項目	内容
調査対象	15 歳以上の駒ヶ根市民 1,000 名を抽出 ※本調査においては、地区別の傾向なども把握するが、市民全体から無作為抽出を行うと、市中心部のサンプルが大きくなり、山麓、山間部の小規模集落などのサンプルが不足する。このため、地区ごとの人口比を基本としつつも、小規模集落にも一定数ずつ行き渡るよう最低配布枚数を設定して抽出する。
調査方法	郵送配布、郵送回収により実施
調査時期	平成 30 年 8 月上旬配布 回答期間 2 週間程度 8 月下旬回収を予定
調査内容	回答者属性、公共交通の利用実態、公共交通に対する意識・ニーズなど ※次表参照

(3) 調査項目の設定

① 網形成計画に掲げた評価指標

網形成計画における各種の目標値のうち、アンケート調査を用いて測ることとしているものは以下の 4 項目である。なお、これらのうち「目標 4-3」に掲げる「市民満足度調査」は、政策評価などのために市で定期的実施している別の調査である。

設定目標		使用するデータ	データ取得方法 およびスパン
(2) 地域公共交通の利用実績に関する目標			
目標 2-6	市民全体での JR 飯田線の利用頻度 ＝「月 1 回以上利用」が 9%	市民意向調査 (アンケート)	協議会で定期的実施 ■ 隔年
目標 2-7	市民全体での高速バスの利用頻度 ＝「月 1 回以上利用」が 8%	市民意向調査 (アンケート)	
(4) 地域公共交通の利用促進 ・意識醸成に関する目標			
目標 4-3	公共交通に対する住民の満足度 ＝評点 3.2 [中間時 H30] 評点 3.5 [計画期間終了時]	市民満足度調査 (アンケート)	市で定期的実施 ■ 隔年
目標 4-4	公共交通を住民が支えていく意識 ＝「地域住民で負担してサービス保持」 という回答 30%以上	市民意向調査 (アンケート)	協議会で定期的実施 ■ 隔年

②本調査における調査項目の設定

①に掲げた4項目のうちの3項目のほか、基本的な回答者の属性や、日常の生活スタイルの把握、平成27年度に実施した計画策手時の調査との連続性なども踏まえ、下表のような調査項目を設定する。

大項目	小項目	質問の意図とアウトプットへの活用
回答者属性	性別、 居住地区、 年齢	調査の基本情報として取得。 年代別、居住地区別などのクロス集計等に利用。 居住地区は市内の16の行政区分で回答。
	運転免許の有無 身近な人による 送迎の可否	公共交通利用の有無に密接に関連する個人属性となる。 交通不便者層を設定したうえでのクロス集計等に利用する。
	世帯の状況	上記質問とも関連するが、ひとり暮らし、高齢夫婦のみ、親子同居などは、公共交通の利用状況に影響する。 交通不便者層を設定したうえでのクロス集計に等に利用する。
日常の交通行動	目的	日常の交通行動を回答者にとって重要なものから2種類回答。 回答者の基本的な生活スタイルを把握するためのもので、細かい移動パターンまでは問わない。
	移動先	移動の大枠だけ把握するため、駒ヶ根市内か市外かのみ把握。
	交通手段	利用しているすべての交通手段を回答。 公共交通の利用状況や乗換えの状況などを把握。
	頻度	交通行動の基本的な要素として把握。
	不便度	日常の移動に不便さを感じているかどうかを把握。
公共交通の 利用状況	利用の有無 (頻度)	JR飯田線、駒ヶ岳ロープウェイ線バス、高速バス、タクシーの 市内の主要な公共交通機関について、この半年間での利用回数を把握。 公共交通の利用促進、マイカーへの過度な依存からの脱却を掲げた施策の効果の有無などを把握。
公共交通に対する 意識・ニーズ (計画策定時 調査を踏襲)	公共交通の 必要性	自家用車利用者が大半を占めるなかで、駒ヶ根市に公共交通が必要かどうかという根幹的な意識を把握。
	税金投入に についての認知	現在の公共交通維持のための税金の投入額を示し、税金投入に関する認知、額の妥当性に対する意識などを把握。
	市民で支える 意識	公共交通を誰が支えていくか、利用しない人も含めて市民自らが費用負担をする必要があるかについての意識を回答。 計画策定時の中間評価指標として活用。
	負担可能額	前問で負担するといった場合の可能額を回答。 負担額が増えていくことに対して、どの程度の許容性があるかを把握。
	運転の継続 免許返納	(運転者のみ) 運転を続けたい意向の有無、自主的に運転をやめようと思う年齢を回答。 高齢者の事故が社会問題となるなかでの運転に対する意識などを把握。
意見・要望	自由意見	その他、市の交通施策に関する意見・要望などを自由に記載。 内容を項目別に整理してとりまとめ、施策改善などに役立てる。

「いいちゃんバス」の市内沿線上への停留所設置について

【経過】

飯島町コミュニティバス「いいちゃんバス病院線」は、ＪＲ飯島駅と昭和伊南総合病院を１日４往復運行しており、駒ヶ根市民からの利用要望がある。

そこで、平成 29 年度に沿道住民に対して、ニーズを把握するための市民アンケート調査を実施し、平成 30 年 3 月の協議会で結果を報告した。

平成 30 年 6 月 1 日、タクシー事業者と事務局で今後の対応について協議した。

【タクシー部会協議内容】

いいちゃんバスの市内沿線上への停留所の設置については、下記を条件として飯島町と協議を進めること。

（協議を進める上での条件）

- 半年程度の試験運行として、状況により期間を区切り延長を検討する。
- 路線の変更は行わない。
- 運行時間の変更は行わない。
- 増便は実施しない。
- 停留所は最大 3 箇所とする。

【今後の進め方（手続き）】

- ①駒ヶ根市地域公共交通協議会において、本件を飯島町地域公共交通会議との協議議題とすることの承認
- ②飯島町地域公共交通会議事務局との調整
バス停を新設することへの同意、その際の条件等の設定、費用負担など
- ③地域公共交通協議会での「検討開始」に関する承認とりつけ
飯島町 ⇒ 駒ヶ根市
↓
承認された場合
↓
- ④バス停設置に関する具体的な協議
（道路管理者・交通管理者・バス事業者・タクシー事業者・地元など）
- ⑤地域公共交通協議会での「候補地内定」に関する承認とりつけ
- ⑥道路占用許可や運輸局への申請手続き
- ⑦運行開始

平成29年度 こまタク(こまがねデマンド型乗合タクシー)運行実績

■利用者像(純利用者数) ⇒ 登録者でこまタクを利用した人

① 男女別

	H28	H29	%
男	38	52	19%
女	225	218	81%
計	263	270	100%

増 7人

② 年齢別

	H28	H29	前比	%
～59歳	18	20	2	7.4
60～69歳	11	16	5	5.9
70～79歳	65	71	6	26.3
80～89歳	148	150	2	55.6
90歳～	21	13	-8	4.8
計	263	270	7	100

※2018.1.1時点の年齢

③ エリア別

エリア	H28	H29	前比
ア	52	65	13
イ	26	31	5
ウ	33	28	-5
エ	80	81	1
オ	72	65	-7
計	263	270	7

【分析】

- ① 女性の利用が大半だが、男性の利用率が上昇(前年比5%増)
- ② 純利用者の87%が70歳以上
純利用者数は前年比7人増
- ③ ア(中沢、下平1・3・4・5・6・11・12)
イ(東伊那、下平7～10・14)で増
その他地域では減

■利用実績

【A】利用登録者数

エリア	H27 3月	H28 3月	H28 9月	H29 3月	H30 3月
ア	238	238	240	245	258
イ	111	110	113	114	124
ウ	267	254	261	146	154
エ	234	233	230	353	374
オ	411	395	403	417	438
計	1,261	1,230	1,247	1,275	1,348

29.3比:73人増

【B】純利用者数(月平均)

年度	26	27	28上	28下	29
計	120	121	121	139	143

(人) 28下比:4人増

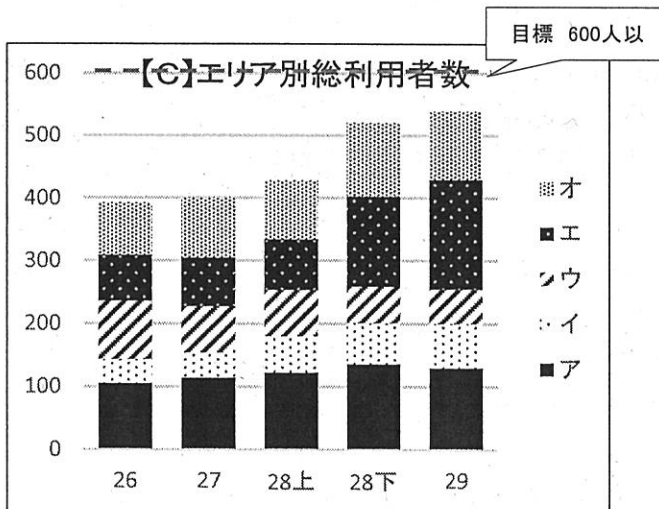
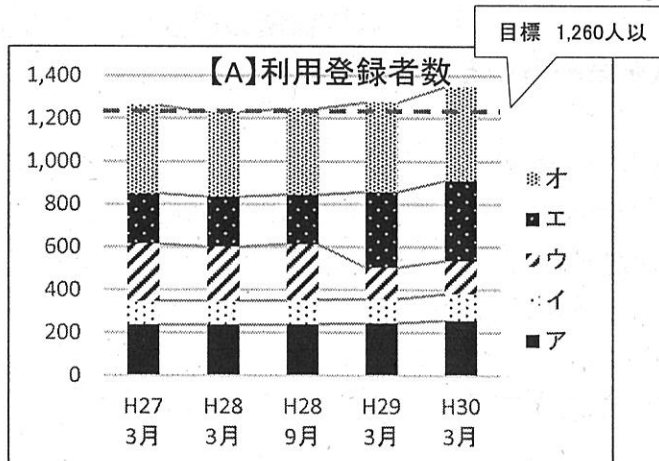
【C】(月平均)総利用者数

エリア	26	27	28上	28下	29
ア	105	114	122	136	130
イ	38	40	58	65	70
ウ	93	73	73	58	55
エ	73	78	81	144	175
オ	83	95	94	117	109
計	392	400	428	520	539

(人) 28下比:19人増

【D】1便当たり平均乗車人数

エリア	26	27	28上	28下	29	
ア	3.3	3.5	3.6			伊南 乗用
イ	2.0	1.9	2.5	2.5	2.3	
ウ	2.9	2.6	2.6			
エ	2.6	2.8	3.2			
オ	2.9	3.1	3.0	2.1	2.3	赤穂 タク
平均	2.7	2.8	2.9	2.3	2.3	



【E】各停留所の利用状況

停留所名	利用者数
昭和病院	993
前澤病院	451
山村整形	1,496
つちかね整形	213
駒ヶ根駅	1,378
郵便局	103
市役所	107
文化C	279
ふれあいC	26
JA駒ヶ根	554
ベルシャイン	636

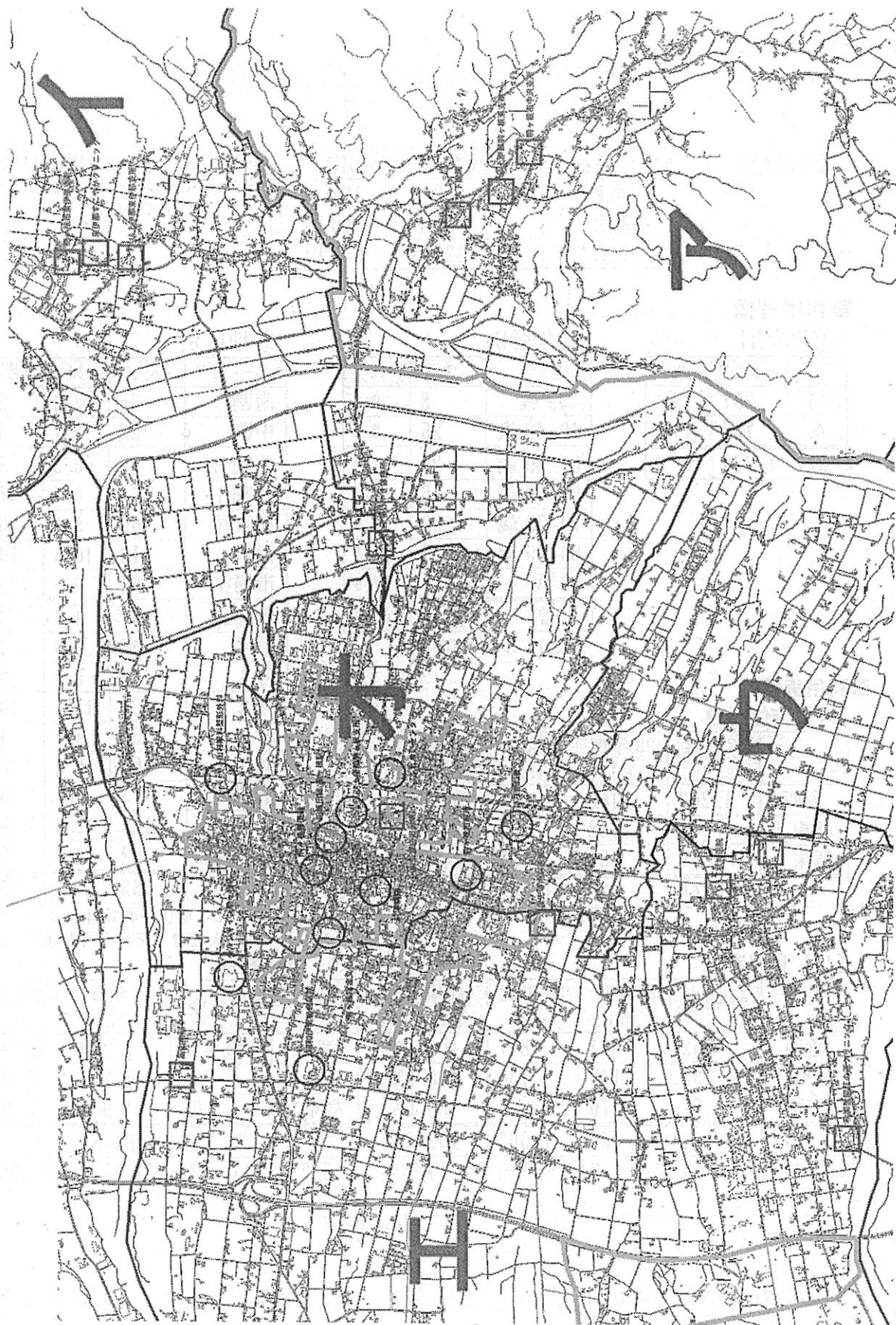
エリア限定停留所	利用者数
ア 木下医院	43
アイ けやき診療所	8
ア JA駒ヶ根東	10
ア 中沢支所	14
イ すこやか	15
イ JA東伊那	12
イ 東伊那支所	3
ウエ 秋城医院	21
ウエ かしの実	23
エ 花の道	2
エ 高山内科	17
エ 座光寺内科	7
オ 須田医院	53

【分析】

- 利用登録者は目標の1,260人を超えた。新規73名登録
- 純利用者数(月平均)は、4人増加
- 総利用者数(月平均)は、19増加
- 1便当たりの平均乗車人数は、横ばいで推移
- 様々な施設が隣在する停留所の利用者数は増加傾向にある。ふれあいセンター利用者は、約2名/月。停留所の変更・廃止の検討余地あり。

こまタク

- ・運行 平日毎日運行(盆・年末年始除く)、4便/日(往路1便 8:00、往路2便 10:00、復路1便 12:00、復路2便 14:00)の運行
- ・停留所 予約により、往路は自宅から停留所、復路は停留所から自宅へ、乗合による送迎



平成 29 年度 割引タクシー券 利用実績

■制度概要

交付対象者 65 歳以上で自動車による交通手段の無い市民
「福祉タクシー券」の対象者

交付枚数

居住地区	交付枚数※1	割引額※2
竜西	40 枚	100 円
竜東 1	80 枚	300 円
竜東 2	120 枚	350 円

※1 年度中途の交付枚数は月割計算
※2 500 円のタクシー料金につき
割り引く金額

■利用者像

①男女別

	人	%
男	267	25.1
女	796	74.9
計	1,063	100.0

②年齢別

	人	%
～39 歳	8	0.7
40～49 歳	25	2.3
50～59 歳	20	1.9
60～69 歳	55	5.2
70～79 歳	222	20.9
80～89 歳	543	51.1
90 歳～	190	17.9
計	1,063	100.0

※2018.1.1 時点の年齢

③地区別

	人 a	%	高齢人口 b	a/b
南割	25	2.4	256	9.8
中割	29	2.7	352	8.2
北割 2	67	6.3	538	12.5
北割 1	68	6.4	759	9.0
小町屋	60	5.6	629	9.5
福岡	112	10.5	1080	10.4
市場割	69	6.5	529	13.0
上赤須	47	4.4	360	13.1
下平	40	3.8	458	8.7
町 1	53	5.0	354	15.0
町 2	122	11.5	1071	11.4
町 3	54	5.1	454	11.9
町 4	68	6.4	590	11.5
上穂町	63	5.9	600	10.5
中沢	134	12.6	995	13.5
東伊那	52	4.9	618	8.4
計	1,063	100.0	9,643	

※2018.4.1 現在の高齢者人口
(外国人含む、施設入所者除く、市福祉課提供)

■利用実態

【A】交付者数

	27 年度	28 年度 (a)	29 年度 (b)	前年比 (b/a)
竜西	1,202	1,163	1,273	109.5%
竜東 1	181	188	188	100.0%
竜東 2	85	81	85	104.9%
計	1,468	1,432	1,546	108.0%

【B】利用者数

	27 年度	28 年度 (a)	29 年度 (b)	前年比 (b/a)
竜西	852	821	877	106.8%
竜東 1	132	143	130	90.9%
竜東 2	67	70	56	80.0%
計	1,051	1,034	1,063	102.8%

【C】利用枚数

	27 年度	28 年度 (c)	29 年度 (d)	前年比 (d/c)
竜西	20,418	17,229	19,321	112.1%
竜東 1	7,065	6,314	5,994	94.9%
竜東 2	5,106	4,944	4,230	85.6%
計	32,589	28,487	29,545	103.7%

※市の負担額 28 年度 5,347,500 円 ⇒ 29 年度 5,210,800 円 (前年比 -136,700 円)

【分析】

①②

高齢の女性が利用者の中心だが、こまタクと比べ割引券は男性が占める割合が高い

③

高齢者人口は 1 年間で 239 人 (前年比 2.5%) 増加している

高齢人口に占める利用者の割合は、概ね市街地からの距離と正の相関関係だが、町部の利用も増えている

【A・B・C】

利用実態においては、竜東地域での利用者数・枚数ともに減少している。

平成29年度 福祉タクシー券 利用実績

■制度概要

交付対象者 自動車による交通手段がない次の市民

- ・身体障害者手帳の交付を受け、障害の程度が1級又は2級の方
- ・身体障害者手帳の交付を受け、障害の程度が3級（視覚障害、平衡機能障害、下肢機能障害、体幹機能障害及び呼吸器機能障害に限る。）の方
- ・特定疾患受給者証若しくは精神障害者保健福祉手帳若しくは療育手帳の交付を受けた方、又は慢性関節リュウマチの患者
- ・介護保険の要支援又は要介護認定を受けている方
- ・65歳以上の高齢者で市民税非課税世帯の方

交付枚数

居住地区	交付枚数※1	金額※2
竜西	12枚	500円
竜東1	24枚	
竜東2	36枚	

※1 年度中途の交付枚数は月割計算

※2 タクシー料金支払いに使える
1枚500円の金券

■利用実態

【A】交付者数

	28年度 (a)	29年度 (b)	前年比 (b/a)
高齢者	1,009	919	91.1%
障がい	165	159	96.4%
計	1,174	1078	91.8%

	【B】交付枚数			【C】利用枚数			【D】利用率		
	28年度 (c)	29年度 (d)	前年比 (d/c)	28年度 (e)	29年度 (f)	前年比 (f/e)	28年度 e/c (g)	29年度 f/d (h)	前年比
高齢者	13,871	13,057	94.1%	9,197	8,832	96.0%	66.3%	67.6%	+1.3%
障がい	2,156	2,085	96.7%	1,483	1,480	99.8%	68.8%	71.0%	+2.2%
計	16,027	14,537	90.7%	10,680	10,312	96.6%	66.6%	70.9%	+4.3%

※市の負担額 28年度5,340,000円 ⇒ 29年度 5,156,000円 (前年比 -184,000円)

【分析】

交付枚数及び利用枚数は共に減少。利用率は向上している。

市の負担額は割引・福祉タクシー券合わせて、32万円減少（前年比3%減）

運転免許証の自主返納支援事業の状況 (H30. 3. 31 現在)

■ 支援事業の目的

高齢者等による交通事故の減少を図るとともに、公共交通機関の利用を促進するため、運転免許証の自主返納の推進を支援する。

■ 支援事業の概要

- ・対象者
 - ① 駒ヶ根市内に住民登録されている人
 - ② 運転免許の全てを自主返納した人
- ・支援内容
こまタク乗車券 1万円分 (1回 400 円×25 回)

■ 交付者像

- ・交付者数 92 名

【A】男女別

性 別	人 数	%
男 性	47	51%
女 性	45	49%
計	92	100%

【B】地区別

地区エリア		人数	%
ア	中沢区	18	19.6%
	下平区 (第1・3・4・5・6・11・12)		
イ	東伊那区	7	7.6%
	下平区 (第7・8・9・10・14)		
ウ	市場割区 (宮の前・美里を除く)	9	9.8%
	上赤須区、中沢区吉瀬		
エ	福岡区、北割1区・2区	25	27.2%
	中割区、南割区		
オ	町1・2・3・4区、市場割区宮の前・美里	33	35.9%
	上穂町区、小町屋区、下平区第2・13		
計		92	100%

【C】年齢別

年齢層	人 数	%
60～69歳	3	3.3%
70～79歳	27	29.3%
80～89歳	53	57.6%
90歳～	9	9.8%
計	92	100%

【D】交付時のこまタク利用状況

利用状況	人数	比率	純利用者	比率
登録済、利用経験有り	8	8.7%	6	75.0%
登録済、未利用	13	14.1%	2	15.4%
こまタク未登録	71	77.2%	13	18.3%
計	92	100%	21	22.8%

利用登録者 71 名
増加、純利用者は
15 名増加。

交付者 1 名につき 25 枚の乗車券を配布した (合計 2,300 枚)。3 月末までに使用された枚数は 237 枚で、使用率は約 10.3%となっている。